



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

国立大学法人 京都大学 学術情報メディアセンター

所在地：〒606-8501 京都市左京区吉田本町 ホームページ：<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja>

● 導入の背景

国立大学法人 京都大学 学術情報メディアセンターでは、24台の大型液晶ディスプレイを組み合わせた大型表示システム「タイルドディスプレイ」を利用して、三次元グラフィックス可視化アプリケーションなどを使った全学共通科目の授業や研究を行っている。

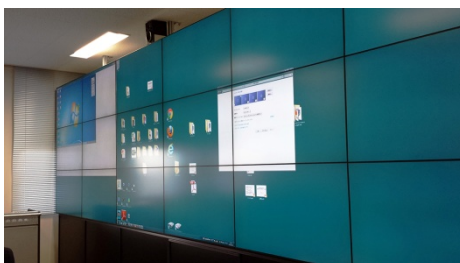
このタイルドディスプレイを利用する時に、各学生のPCによる協働作業などに課題があり、簡単な操作でエクセルやパワーポイントなどをタイルドディスプレイに表示できるソリューションを探していたときに、Tidebreak コラ

レーション・ソフトウェアを知ったという。

それまでiPadで行う他社のシステムを利用していたが、端末がiPadに限定されることや、利用前の準備に時間がかかっているなどがネックとなっていた。Tidebreak コラボレーション・ソフトウェアは、学生が持ち寄ったPCやタブレットPCで簡単に利用ができ、準備の時間が少なくて済む。さらに複数の学生がホストPCとなるタイルドディスプレイの画面上で簡単に画面共有や編集ができることから、Tidebreak コラボレーション・ソフトウェアの導入を決めた。



写真中央が 小山田耕二 教授、
左に 坂本尚久主任専門業務職員、
右に 研究室学生 小澤啓太様



24面の大型モニターを利用したタイルドディスプレイ



Tidebreak コラボレーション・ソフトウェアの授業での利用の様子

● 導入モデル

Tidebreak コラボレーション・ソフトウェア
TeamSpot 3年ライセンス

クライアントPC同時接続最大9人までホストPCへの参加が可能なベーシックなモデル。

● システム基本構成

ホストPC：1台
クライアントPC：最大9台同時参加

● モデル特徴

・ホストPCへ最大9名まで同時参加可能
・チームメンバーでの会議やディスカッション、協働作業に最適



● 利用後の感想や今後の展望

Tidebreak コラボレーション・ソフトウェアを導入した初めての授業では、学生が2人1組となり、お互いの他己紹介を実施。各自が作成したパワーポイントをタイルドディスプレイに表示して発表を行った。

「PCへのクライアントソフトウェアのインストールも簡単で、参加学生もすぐに利用ができた。」「iPadなどのタブレットPCも簡単に利用できるのが良かった。」との授業での利用のご感想をいただいた。

現在は検証段階のため、システムの具体的な利用や運用方

法は検討段階であるが、大規模な粒子シミュレーションを可視化する三次元グラフィックス可視化アプリケーション「Zindaiji3」を複数の学生クライアント端末から操作し、一つの成果物を作り上げるなどの利用方法を考えている。

現在はTeamSpotによる検証を行っているが、今後、具体的な授業での利用にはClassSpot-PBLの方が適しているのではないかと考えている。ClassSpot-PBLのデモライセンスを利用し、授業での活用方法を検証していく予定だ。